

宇治久世青年教研学級集団づくり分科会

1989. 1. 21 (土)

宇治市立西宇治中学校 田中正浩

1. はじめに～何のために班をつくるか～

1年2組は学年の中でも比較のおとなしいクラスであり、4月初めに担任がほとんど勝手に作った「仮班」でも、さほど問題があったわけではない。「班」というものをただ「管理の道具」ととらえるならば、わざわざ班替えをする必要性はないだろう。しかし「班」は決して管理のためではなく、集団を教えるためにあるべきものである。色々な集団に所属し、様々な活動をその中ですることで、子どもの認識や行動力は高まり、「集団」というものを学んでいく。その意味で班替えは必要だ。また、遠足や、合唱祭という大きな行事を後に控え、リーダーの意識を高めておかななくてはいけない。そのためにも、5月半ばのこの時期に、班長自らの手による班編制が必要であった。

2. 第I期正式班の決定

① 班長立候補（男女6名ずつ） —5月7日—

もともと女子は積極的で、6人がすぐに立候補した。男子もつられるように4人までは立候補したが、あと2人がなかなか出ず、残念ながら最終的には推薦によって決めた。

② 班長会議（第I期班編成会議） —5月12日—

まず、担任から班替えの目的をわかりやすく述べた。（小学校のように、くじびきや好きな者同士ではなぜいけないか…。生徒が十分理解した後、班編成の手順を説明し、担任の司会で実際に班編成を進めていった。

第I期班編成のポイント（生徒に話す内容）

- ・この班で遠足と合唱祭に取りくむ。
- ・班の間に、なるべく取りくみの差ができないようにしよう。
- ・問題が起こったときに、それを自分達で解決できる班にしていこう。

班編成の手順

- ・12名の班長候補から6名の正班長と6名の副班長を決める。
- ・正副班長のペアを考える。（仮班での経験を重視して、なるべく平均的になるようにする。）
- ・事前にとった生徒のアンケートの結果を参考にして、ベル席ができない者、掃除をさぼる者、授業中私語をよくする者を6名あげる。…A
- ・班長を助けてくれそうな者（サブリーダー）を男女各6名あげる。…B
- ・正副班長2人ずつの意見を調整し、Aの6人を各班にふりわけると。
- ・同様に、Bの12人を各班にふりわけると。
- ・仮班の時のメンバーや、クラブを考慮して、かたよりのないように、残りの13人をふりわけると。

＊ 担任としていくつか気になることがあったので、あらかじめ腹案を作っていた。まず、授業中の私語が多いT男やK男、それに低学力のY男には、小学校からリーダーであがっている3人の女子をつける。いじめられのN男には優しく、世話好きのH男をつける。力はあるが利己的なM男が班長に推薦されたので、やる気を引き出すようにもっていき、などである。生徒にたいしても言ってきたが、仮班で誰がリーダーで、誰が皆に迷惑をかけるか、担任としてしっかりつかんでおかななくてはならない。

③ 学級会に班長会より提案（班長が自分の班を発表） — 5月13日 —

全員の承認により、決定。「エー」とか「ウワー」、「やったー」など、反応は様々だが、班長会には絶対の権威（権限）があるので、ここで提案が覆されることはなかった。

3. 第I期正式班の取りくみ

・係とり

6つの係を決めた。（新聞／美化・生活／学習連絡／歌・レク／集配／掲示物）どの係を希望するか班会議（机を必ずひっつけさせる。時間をきめ、時間内に意見がまとまった班を優先する）—希望が重なった係があったので、その班に演説をさせた後、班一票制で役票をし、決めていった。

・班ポスター

班目標や班でのきまり（班ノートの順番など）および係分担をきめさせ、しっかりできた班からポスターを書かせる。てきぱきと討議ができないと、いい色が使えないので、各班とも班長中心に全員が討議に参加した。

・ベル席

仮班のときからやっていたため、スムーズにできたが、正式班では自覚も高まり、取りくみが進んだ。点検だけから、声かけや注意ができるようになり、同じ者が何度も違反をするようになると、自覚的に班会議を開けるようになった。

（勿論、担任も入って指導するが）

☆こういう基礎的な活動の一つひとつ成功させ、積極面をどんどん評価し、班長に自信と自覚を持たせることで、その後の遠足や合唱祭も、班を基盤にして取りくみを成功させる下地ができた。